資料-1.3

第2回　斐伊川放水路環境モニタリング協議会
～第1回協議会での指摘事項対応～

平成28年1月13日

「資料3：評価書と工事中モニタリング調査結果の概要」についての指摘事項

協議・質問内容	回答・対応	対応資料
【佐藤委員】 環境影響評価書の結果を受けてP42の課題が抽出されているが、現状について再度整理すれば、今後の課題はこれだけでないのではないか。アセスの調査範囲から実態に合わせた絞り込みが必要ではないか。	斐伊川放水路は閣議アセス案件であり、文献に記載された重要な種のうち、分布位置の記載のないものは安全側の観点から予測対象に加えており、委員の方からのご指摘のうち、「現状に即したモニタリング事項の整理」については確認位置が不確定などの点から整理が困難となっています。 このため工事中を含めた現地調査で確認された種を基礎データとして整理します。 （H27事前委員ヒアリング）	【資料-1.1】 P36、P39、P42、P44、P47、P50
【淀江委員】 環境影響評価書の結果では、立久恵峡にしかいない昆虫が挙がっている。当時の調査範囲は広く、現状では意味がない。現在の環境からは、拡幅部の河川敷や堤防の草地環境や、河口部の砂丘環境が重要であるので、現状にあった重要種を調査する必要がある。		
【清家委員】 分流によりN、Pが変化する。流入負荷についてL-Q式を求める出水時調査が必要ではないか。	神戸川本川からの負荷量と分流分は斐伊川からの負荷量で算出する。 （H27事前委員ヒアリング）	－（※）

※平成27年は放水路の分流はなかったため、H28年調査以降に実施予定。

「資料4：環境モニタリング計画（案）」についての指摘事項

協議・質問内容	回答・対応	対応資料
【佐藤委員】 調査地点を追加すべきである。放水路合流手前の背水部の浅くなっているところは、水草や藻が生えている。浅くなっているところを追加する。ここは、藻や魚を食べるカモ類やコハクチョウなどの鳥が多い。調査地点は拡幅前を前提としている。新たに形成されているので、うすくてよいので全域で調査する必要がある。馬木の上流や河口の海域も入れるべきではないか。	委員ヒアリングにより、調査地点を確定した。 放水路下流側の水域については、鳥類・底生動物・沈水植物・魚類などの調査を行う。ただし、H27については工事予定があるため、H28以降になると考えられるが、H27については水抜きのタイミングで魚類調査を行う。 （H27事前委員ヒアリング）	【資料-4】 P3～4
【淀江委員】 昆虫は発生期が短い。昆虫は特定の植物と結びつきがあるので、植物調査時に、たとえばミヤコグサ、ウマノスズクサなどの植物の分布を記録する。	植物調査時に、ミヤコグサ（シルビアシジミ）、ウマノスズクサ（ジャコウアゲハ）、カワラケツメイ（ツマグロキチョウ）をGPSで記録する。 （H27事前委員ヒアリング）	【資料-1.1】 P40
【中村委員】 シジミやアユの調査内容は、目標が高くかなり困難と思われる部分がある。調査量も大きくなりかねない。また、シジミ調査の対象はヤマトシジミとするのか。	ヤマトシジミを対象とする。シジミ属が採集された場合は、DNA鑑定を行わず、「シジミ属」として記録する。 （H27事前委員ヒアリング）	【資料-1.1】 P52
【佐藤委員】 アユの産卵場から稚アユが海の降下する時に神戸堰を降下しているのか解明されていない。漁協としても気になることである。	水産技術センターが実施したH24神戸堰下流流下仔魚調査では、卵黄が消費されていない仔魚も流下が確認されている。本モニタリングで実施する流下仔魚調査で卵黄指数に着目し調査する。	【資料-4】 P9

「資料4：環境モニタリング計画（案）」についての指摘事項

協議・質問内容	回答・対応	対応資料
【淀江委員】 昆虫は発生期が短いので、5,7,9月の調査では6月が抜ける。ゲンジボタル、サナエトンボなどが確認できないので。別途調査して欲しい。	春季調査を5月下旬～6月上旬、夏季調査を7月下旬～8月上旬に実施し、6月の別の調査時に見つけ取り、目撃法で補足する事で了承を頂いた。 （H27事前委員ヒアリング）	【資料-1.1】 P48
【梶川委員】 水文調査により、小規模の洪水が増えるのか、大規模の出水が増えるのか履歴も含めて検討する必要がある。	斐伊川及び神戸川の経年的な流量をとりまとめ、今後の検討の基礎資料とする。	－
【梶川委員】 神戸川の拡幅部は、堆積傾向となることが予想されるので、ワンドの形状変化について経年的に細かく調査する必要がある。	H27現地調査計画の調査方法で了承を頂いた。 （H27事前委員ヒアリング）	－
【中村委員】 代表種としてシジミ、アユを調査してくれることは水産としてはうれしい。調査方法は十分検討すること。ワンドの調査についても、調査計画が重要となるので、他の事例も参考に計画すること。		
【清家委員】 専門の委員の指導をいただき、モニタリング調査計画を策定し、調査を進めること。		